



## 2020年10月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年6月12日

上場会社名 株式会社 トップカルチャー

上場取引所 東

コード番号 7640 URL <http://www.topculture.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 秀雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 遠海 武則

TEL 025-232-0008

四半期報告書提出予定日 2020年6月19日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年10月期第2四半期の連結業績(2019年11月1日～2020年4月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第2四半期	15,964	5.4	343	8.2	376	28.8	324	175.1
2019年10月期第2四半期	16,884	3.0	317		292		118	

(注) 包括利益 2020年10月期第2四半期 314百万円 (450.3%) 2019年10月期第2四半期 57百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第2四半期	26.87	26.82
2019年10月期第2四半期	9.77	9.75

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年10月期第2四半期	21,246	3,588	16.7	293.99
2019年10月期	21,528	3,273	15.1	268.14

(参考) 自己資本 2020年10月期第2四半期 3,552百万円 2019年10月期 3,240百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期		0.00		0.00	0.00
2020年10月期		0.00			
2020年10月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年10月期の連結業績予想(2019年11月1日～2020年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,700	8.0	222	27.6	175	13.4	151	11.1	12.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年10月期2Q	12,688,000 株	2019年10月期	12,688,000 株
期末自己株式数	2020年10月期2Q	603,480 株	2019年10月期	603,480 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年10月期2Q	12,084,520 株	2019年10月期2Q	12,084,520 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結損益計算書関係)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
4. 補足情報	14
(1) 生産、受注及び販売の状況	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に穏やかな回復基調で推移していたものの、2019年10月より施行された消費税引き上げ、台風等の自然災害、加えて新型コロナウイルスの感染拡大により急速に悪化し、小売業・飲食業・ホテル業をはじめ、あらゆる産業をとりまく環境は、大変厳しいものとなっております。

当社グループの事業環境につきましても、2019年10月に襲来した台風19号により、当社の運営する蔦屋書店東松山店が甚大な被害を受け休店しておりましたが、2019年12月27日より営業を再開いたしました。また、蔦屋書店塩尻店が道路拡張工事の影響により、T S U T A Y A 町屋店が周辺地域の開発計画の影響により、いずれも2020年1月に閉店いたしました。これによりグループ店舗数は76店舗となりました。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言を受け、2020年4月には東京都の2店舗を休業し、他74店舗につきましても営業時間の短縮等を行いました。

また、緊急事態宣言に伴う外出自粛要請を受け、商談や各種会議、店舗巡回もリモートで行い、店舗や事業所内での密閉・密集・密接の3つの密を避ける対策を実施し、お客様、従業員の安全確保に努めました。

このような状況のもと、当社グループでは、「日常的エンターテイメント」を提供することで一人一人の暮らしを豊かにしたいというコンセプトを掲げ、食品などの新規の商品分野の開拓、書籍や特撰雑貨・文具の複合展開、様々なテナントの積極的な誘致などを実施し、お客様へ多様なライフスタイルを提案する店舗を作っていました。また、アプリやSNSを活用し、お客様のニーズに沿った情報を積極的に発信してまいりました。

同時に、店舗の運営力・収益力の強化対策として、売上構成比率の見直しや、営業時間の短縮、セルフレジの導入による店舗運営コストの削減を推進しております。また、当社グループが主要経営指標としている交差比率(売上総利益率×商品回転率)改善の為、システム投資によるIT化を進め、自社基幹システムによる在庫管理の改善を行いました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高15,964百万円(前年同四半期5.4%減)となり、営業利益343百万円(前年同四半期8.2%増)、経常利益376百万円(前年同四半期28.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益324百万円(前年同四半期175.1%増)となりました。

#### 売上・利益の増減要因

売上面につきましては、緊急事態宣言に伴う外出自粛要請による巣籠り需要の高まりや、マスクや除菌グッズ等の衛生用品の販売により、主力である書籍、特撰雑貨・文具の売上は大きく伸長しました。また、テナントの誘致等を積極的に行った結果、賃貸不動産収入は前年同期比102.8%(既存店102.3%)と好調に推移しました。一方で、自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大による一時的な休店、周辺地域の開発に伴う閉店等により、営業店舗数そのものが前期に比べて減少し、当社グループの軸である蔦屋書店事業全体の売上高前年同期比は94.3%(既存店99.9%)となりました。

利益面につきましては、前述した主力商品の売上の伸長が奏功し、営業利益は前年同期比8.2%増加し343百万円となりました。また、休業中の固定費や将来に向けた一過性の投資的費用93百万円が発生したものの、閉店店舗の販管費については減少し、経営効率の改善にもつながりました。経常利益は受取補償金もあり、前年同期比28.8%増加し376百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比175.1%増加し324百万円となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

なお、第35期連結会計年度末より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。また、これに合わせて前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成しております。

また、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① 蔦屋書店事業

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高15,606百万円（前年同期比94.3%）、セグメント利益は308百万円（前年同期比101.6%）となりました。

主力商品の売上高前年同期比は、書籍98.4%（既存店103.5%）、特撰雑貨・文具98.8%（既存店102.6%）、レンタル78.8%（既存店85.5%）、ゲーム・リサイクル89.1%（既存店98.3%）、販売用CD68.0%（既存店73.3%）、販売用DVD82.8%（既存店89.5%）、賃貸不動産収入102.8%（既存店102.3%）となりました。

② スポーツ関連事業

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、例年であれば3月より繁忙期に入りますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休業していたことも影響し、売上高92百万円（前年同期比92.2%）、セグメント損失14百万円（前年同期セグメント損失19百万円）となりました。

③ 訪問看護事業

訪問看護事業につきましては、事業所が2か所となり、利用者も順調に増加した結果、当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高40百万円（前年同期比314.9%）、セグメント利益4百万円（前年同期セグメント損失13百万円）となりました。

④ その他

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高226百万円（前年同期比92.1%）、セグメント利益5百万円（前年同期比142.4%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産につきましては、前連結会計年度末比281百万円減少し、21,246百万円となりました。これは主に、現金及び預金が501百万円増加し、未収入金が403百万円減少した結果、流動資産が85百万円増加し、一方で、リース資産が169百万円、敷金及び保証金が131百万円、それぞれ減少した結果、固定資産が367百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比596百万円減少し、17,658百万円となりました。これは主に、長期借入金763百万円、1年内返済予定の長期借入金220百万円、リース債務226百万円、それぞれ減少した一方で、買掛金384百万円、短期借入金301百万円、それぞれ増加したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比314百万円増加し、3,588百万円となりました。これは主に、利益剰余金が324百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末と比べ501百万円増加し、1,746百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は1,397百万円(前年同期比515百万円資金減)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益が209百万円、たな卸資産の増減額が909百万円、それぞれ増加した一方で、仕入債務の増減額が1,587百万円、減損損失が125百万円、それぞれ減少したことによるものです。

なお、前第2四半期連結累計期間においては、期末日が金融機関休業日であったため、仕入債務等2,162百万円が繰り越され、その分資金が増加しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は40百万円(前年同期比466百万円資金増)となりました。

これは主に、投資有価証券の取得による支出が449百万円減少したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は936百万円(前年同期比677百万円資金増)となりました。

これは主に前年同期と比べ短期借入金の純増減額が601百万円、長期借入による収入が50百万円、それぞれ増加し、リース債務の返済による支出が41百万円減少した一方で、長期借入金の返済による支出が15百万円増加したことによるものです。

なお、前第2四半期連結累計期間に置いては、期末日が金融機関休業日であったため、長期借入金の返済による支出67百万円が翌営業日に繰越され、その分資金が増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期以降においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響も想定され、今後の当社グループの業績に与える影響が不透明であり、2020年10月期の連結業績予想につきましては、2019年12月6日に公表いたしました数値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。
- (4) 追加情報  
該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,254,888	1,756,775
売掛金	339,050	472,582
商品	8,709,153	8,552,359
前払費用	304,635	317,949
未収入金	533,853	130,699
その他	24,018	20,902
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	11,165,196	11,250,864
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,013,065	1,969,920
土地	1,423,759	1,423,759
リース資産(純額)	3,022,857	2,853,785
その他(純額)	256,009	217,549
有形固定資産合計	6,715,692	6,465,015
無形固定資産		
その他	52,576	50,999
無形固定資産合計	52,576	50,999
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,136,165	3,004,490
その他	458,804	475,520
投資その他の資産合計	3,594,970	3,480,011
固定資産合計	10,363,238	9,996,025
資産合計	21,528,434	21,246,890



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,877,938	3,262,469
短期借入金	3,500,000	3,801,500
1年内返済予定の長期借入金	1,887,059	1,666,223
リース債務	491,504	485,237
未払法人税等	87,642	96,485
賞与引当金	47,000	47,000
未払金	431,082	357,769
その他	334,163	335,330
流動負債合計	9,656,390	10,052,015
固定負債		
長期借入金	3,737,494	2,974,330
リース債務	3,907,863	3,687,585
資産除去債務	569,874	561,859
退職給付に係る負債	67,771	64,666
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期未払金	47,513	53,010
長期預り敷金保証金	204,534	202,167
その他	579	310
固定負債合計	8,598,571	7,606,870
負債合計	18,254,962	17,658,885
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,141	2,303,141
利益剰余金	△799,236	△474,513
自己株式	△270,027	△270,027
株主資本合計	3,241,246	3,565,969
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△857	△13,245
その他の包括利益累計額合計	△857	△13,245
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	24,833	27,030
純資産合計	3,273,472	3,588,004
負債純資産合計	21,528,434	21,246,890

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
売上高	16,884,568	15,964,745
売上原価	11,606,830	11,142,193
売上総利益	5,277,738	4,822,551
販売費及び一般管理費	※1 4,960,356	※1 4,478,997
営業利益	317,381	343,554
営業外収益		
受取利息	9,186	8,076
協賛金収入	13,407	13,199
原子力立地給付金	10,427	7,812
受取補償金	-	63,313
その他	10,944	11,501
営業外収益合計	43,965	103,903
営業外費用		
支払利息	68,857	59,050
収用に伴う閉店費用	-	11,645
その他	-	100
営業外費用合計	68,857	70,795
経常利益	292,489	376,661
特別損失		
減損損失	※2 129,778	※2 4,178
特別損失合計	129,778	4,178
税金等調整前四半期純利益	162,711	372,482
法人税、住民税及び事業税	44,115	45,563
法人税等合計	44,115	45,563
四半期純利益	118,596	326,919
非支配株主に帰属する四半期純利益	548	2,196
親会社株主に帰属する四半期純利益	118,048	324,722

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
四半期純利益	118,596	326,919
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△61,438	△12,387
その他の包括利益合計	△61,438	△12,387
四半期包括利益	57,157	314,531
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	56,609	312,335
非支配株主に係る四半期包括利益	548	2,196

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	162,711	372,482
減価償却費	365,688	361,577
減損損失	129,778	4,178
賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,000	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△3,793	△3,105
受取利息及び受取配当金	△9,201	△8,077
支払利息	68,857	59,050
売上債権の増減額(△は増加)	△39,924	△133,532
たな卸資産の増減額(△は増加)	△752,424	156,793
仕入債務の増減額(△は減少)	1,972,261	384,531
未払消費税等の増減額(△は減少)	△27,274	△37,681
長期前払費用の増減額(△は増加)	8,661	8,728
その他	131,145	323,106
小計	1,997,486	1,488,052
利息及び配当金の受取額	330	287
利息の支払額	△66,831	△58,592
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△18,169	△32,047
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,912,815	1,397,698
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△10,567	△29,480
無形固定資産の取得による支出	—	△2,000
投資有価証券の取得による支出	△499,800	△49,902
敷金及び保証金の回収による収入	97,414	145,195
敷金及び保証金の差入による支出	△5,225	△5,730
資産除去債務の履行による支出	—	△18,294
その他	△7,171	1,045
投資活動によるキャッシュ・フロー	△425,349	40,834
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△300,000	301,500
長期借入れによる収入	—	50,000
長期借入金の返済による支出	△1,018,735	△1,034,000
リース債務の返済による支出	△291,390	△250,180
割賦債務の返済による支出	△3,533	△3,428
配当金の支払額	△595	△537
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,614,255	△936,646
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△126,788	501,886
現金及び現金同等物の期首残高	3,437,514	1,244,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,310,725	1,746,775

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
給料手当	1,438,587千円	1,173,461千円
地代家賃	1,414,448千円	1,268,968千円
賞与引当金繰入額	51,000千円	47,000千円
減価償却費	310,967千円	304,457千円

※2 減損損失

前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 リース資産 その他	埼玉県東松山市 神奈川県大和市 新潟市江南区 神奈川県横浜市 群馬県伊勢崎市 埼玉県比企郡川島町 東京都稲城市 東京都台東区

当社グループは、主として店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、129,778千円の減損損失を特別損失として計上いたしました。これは主に、退去時に必要とされる原状回復費用の新たな情報の入手に伴い資産除去債務を計上したこと、及び追加投資の実施により、帳簿価額が将来キャッシュ・フローを上回る見込となり、帳簿価額を回収可能価額まで減額したことによるものであります。

減損損失の内訳は、建物及び構築物81,849千円、リース資産46,661千円、その他1,267千円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.8%で割引いて算定しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 リース資産	新潟市西区

当社グループは、主として店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、4,178千円の減損損失を特別損失として計上いたしました。これは主に、追加投資の実施により、帳簿価額が将来キャッシュ・フローを上回る見込みとなり帳簿価額を回収可能額まで減損したことによるものであります。

減損損失の内訳は、建物及び構築物2,554千円、リース資産1,624千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業				
売上高							
外部顧客に 対する売上高	16,543,237	99,042	12,777	229,510	16,884,568	—	16,884,568
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,784	—	—	1,784	△1,784	—
計	16,543,237	100,827	12,777	229,510	16,886,353	△1,784	16,884,568
セグメント利益又 は損失(△)	304,000	△19,011	△13,285	3,997	275,701	41,680	317,381

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業			
減損損失	129,778	—	—	—	—	129,778

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業				
売上高							
外部顧客に 対する売上高	15,606,683	91,255	40,242	226,563	15,964,745	—	15,964,745
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,714	—	—	1,714	△1,714	—
計	15,606,683	92,969	40,242	226,563	15,966,459	△1,714	15,964,745
セグメント利益又 は損失(△)	308,938	△14,793	4,564	5,693	304,404	39,150	343,554

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業			
減損損失	4,178	—	—	—	—	4,178

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

## 4. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## 商品別販売状況

区 分		前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)		前年同期比 (%)
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)	
蔦屋書店事業	書籍	8,547,373	50.6	8,407,182	52.6	98.4
	特撰雑貨・文具	2,671,618	15.8	2,640,048	16.5	98.8
	レンタル	2,039,176	12.1	1,607,451	10.1	78.8
	ゲーム・リサイクル	849,231	5.0	756,573	4.7	89.1
	販売用CD	677,042	4.0	460,502	2.9	68.0
	販売用DVD	405,616	2.4	335,904	2.1	82.8
	賃貸不動産収入	279,552	1.7	287,446	1.8	102.8
	その他	1,073,624	6.4	1,111,574	7.0	103.5
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	16,543,237	98.0	15,606,683	97.7	94.3
スポーツ関連 事業	外部顧客に対する売上高	99,042	0.6	91,255	0.6	92.1
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,784	0.0	1,714	0.0	96.0
	計	100,827	0.6	92,969	0.6	92.2
訪問看護事業	外部顧客に対する売上高	12,777	0.1	40,242	0.3	314.9
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	12,777	0.1	40,242	0.3	314.9
その他	外部顧客に対する売上高	229,510	1.3	226,563	1.4	98.7
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	229,510	1.3	226,563	1.4	98.7
合計		16,886,353	100.0	15,966,459	100.0	94.6

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

3 蔦屋書店事業の「その他」は、金券他であります。

4 第35期連結会計年度末より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。なお、これに合わせて前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成しております。